

西洋医学では治療困難な 機能性月経困難症に六君子湯が 有効であった症例



岡村 麻子 先生

社会医療法人 若竹会 つくばセントラル病院 産婦人科

東邦大学薬学部卒業後、日立化成工業株式会社 茨城研究所入社

1996年 島根大学医学部(島根医科大学) 卒業

同年 東京大学医学部 産婦人科学教室 入局

日赤医療センター、焼津市立総合病院、茨城日立総合病院 勤務

2008年 北京中醫藥大學 研修

2010年 東京北医療センター 勤務

2014年 医療法人 若竹会 つくばセントラル病院 勤務

2016年 東邦大学薬学部 客員講師

はじめに

月経痛は月経のある女性の約30%に認められ、そのうち機能性月経困難症が42%と報告されている。機能性月経困難症の治療について産婦人科診療ガイドライン2014では、西洋医学的治療(鎮痛薬、低用量エストロゲン・プロゲスチン製剤：LEP)を推奨しているが、鎮痛薬など西洋医学的な治療が無効な重度の症例が約6%も存在する。

そこで、西洋医学的治療では治療困難な機能性月経困難症に六君子湯が有効であった症例を紹介し、現代の社会背景も含めて考察する。

症 例

症 例：35歳 女性、1経産。

主 訴：西洋医学的な治療が無効な月経痛、胃もたれと食欲不振。

現病歴：20歳頃から月経困難症があり、市販の鎮痛薬を服用していた。出産5年後から月経痛がひどくなり他院産婦人科を受診した。ロキソプロフェンナトリウム、ジクロフェナクナトリウムの内服、坐薬(ジクロフェナクナトリウム)が無効であり、LEP製剤も嘔気のため内服できず、子宮内膜症を疑い、精査希望にて当科を受診した。

西洋医学的所見・漢方医学的所見：図1に示す。漢方医学的所見から、脾虚、気虚、痰飲の証であり、全身型の冷え症(体温低下・低代謝)と診断した。

治 療：脾虚・気虚に対し六君子湯(KB-43) 6.0g/日(分2)と、疼痛に対し芍薬甘草湯 2.5g(頓用)を処方し、鎮痛薬を減量した。併せて、冷飲・冷食をやめ、身体を温め、休息と軽い体操をするといった生活指導を行った。

臨床経過：2週間後には下痢が軽快し、食欲は増加した。2ヵ月後にはふらつきと頭痛、足のむくみが軽快するとともに冷えが改善した。5ヵ月後には鎮痛薬は不要となり、月経痛が改善した(図2)。

六君子湯は、四君子湯(補気)と二陳湯(鎮嘔)を含む方剤である(図3)。消化管の水を除いて胃腸を整え、気を巡らせて元気を出すことから、脾気虚と痰飲を併せ持つ本症例には非常に有効な処方と考えられた。

図1 症例 35歳 女性

西洋医学の所見

- 身長:157cm 体重:47kg BMI:19
- 血圧:100/57mmHg 心拍数:81/分 体温:36.0℃
- 血液検査、尿検査、便検査 異常なし
- 消化器内科 異常なし
- 婦人科器質的疾患(子宮内膜症・子宮筋腫)なし
- 月経痛のほか、胃もたれと長期間にわたる下痢があり、頭痛、ふらつきと倦怠感、足のむくみと全身の冷えを認めた。

漢方醫學的所見

- やせ型色白 元気がない 食欲不振 声が小さい 手足の冷え(+)
- 脈診：沈、細
- 舌診：白苔(+) 舌肥大(+) 齒痕(+) 舌下静脈拡張軽度
- 腹診：腹力2/5 腹部の冷え(+) 心下痞硬(+) 胃部振水音(+)



脾虚、気虚、痰飲の証、全身型の冷え（体温低下・低代謝）と診断

図2 処方と治療経過

処方

- 脾虚・気虚に対して
六君子湯 (KB-43) 6.0g/日 (分2)
- 疼痛に対して
芍薬甘草湯 2.5g (頓用) とし 鎮痛薬減量
+ 生活指導 (冷飲・冷食をやめる、温める、体操など)

経過

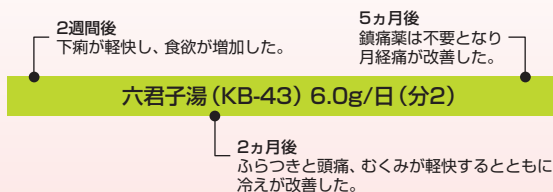
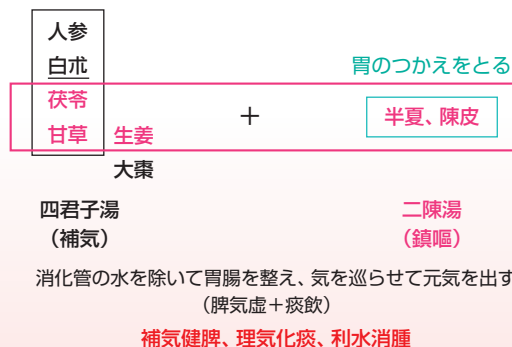


図3 六君子湯



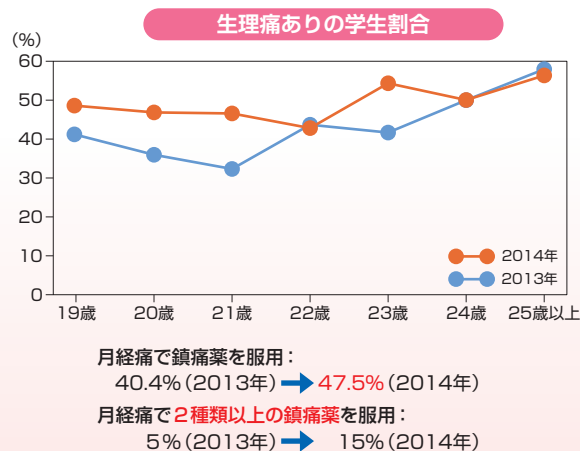
特に、補気健脾が必要な場合には、白朮配合の六君子湯がより有効である。

現代の社会背景

女子学生の月経痛の実態調査を実施した。鎮痛薬を服用している学生は、40.4% (2013年) から47.5% (2014年) に増加し、さらに鎮痛薬を2種類以上服用している学生は5%から15%と増加している(図4)。また、厚生労働省の国

図4 女子学生の月経痛の実態調査

対象 東邦大学習志野キャンパス女子大学生 1,887人



民健康・栄養調査結果2015年によると、20歳代の女性の1日平均エネルギー摂取量は終戦直後の平均値(1,696Kcal)を下回っており、2割がやせ (BMI ≤ 18.5) と報告されている。エネルギー摂取不足は全身の冷えから循環障害を引き起こし、痛みの増加にもつながる。そして、鎮痛薬の連用や多用につながる社会背景があると危惧している。

まとめ

西洋医学的治療が無効な月経困難症が存在する。脾虚、気虚、痰飲を六君子湯の服用と鎮痛薬の減量や生活指導により改善し、胃腸症状の改善と同時に冷えと月経困難症が改善した。

六君子湯証の月経痛の背景に、鎮痛薬の連用や多用による脾虚と、エネルギー摂取不足による冷えと気虚の存在が示唆された。

月経困難症は難治化する前の対応が重要であり、早めの対応によってLEP製剤の内服や当帰芍薬散などの処方の恩恵を受けることも可能であると考えられる。

Discussion

木村：六君子湯を用いるような脾虚の人に月経困難症に汎用される当帰芍薬散を用いる際の注意点を教えてください。

岡村：重症の脾虚の場合、脾虚を治療してから当帰芍薬散など一般的な治療に入るのがよいと思います。

木村：鎮痛薬が多用されている実態をご紹介いただきましたが、鎮痛薬による冷えについてご説明ください。

岡村：鎮痛薬の使用により体温の低下だけではなく、胃腸薬では回復できない胃運動の低下や腸内フローラにも問題をきたします。一般に「月経痛は病気ではない」と思われているため、鎮痛薬を安易に服用してさらに悪化する傾向があります。月経は女性の身体の鏡ですので、ご自身の身体のバランスの崩れを、月経を通して知っていただきたいと思います。